

極早生のオレンジ系グラジオラス新品種「常陸あけぼの」の育成

〔要約〕 到花日数が少なく、同時開花数が多いグラジオラス新品種「常陸あけぼの」を育成した。花色は淡いオレンジ色で、紫赤のブロッチが入る。極早生の中小輪系グラジオラスとして有望である。

茨城県農業総合センター 生物工学研究所・園芸研究所

成果
区分

普及（普及）

1. 背景・ねらい

茨城県のグラジオラスは球根生産、切花生産でそれぞれ全国1位、2位を占める重要な花き品目となっている。近年の消費低迷や輸入球根の自由化に対応し産地の活性化を図るため、花色、草姿に新規性をもつ県オリジナル品種を育成する。

2. 成果の内容・特徴

- 1) 「常陸あけぼの」は、平成9年に生工研育成系統「No.504」を種子親、同じく育成系統「G.H.S.1」を花粉親として交配し、得られた69の実生個体から、花色、草姿などを指標に選抜した品種である（図1）。
- 2) 花色は淡いオレンジ色（明橙赤（日本園芸植物標準色票 0705））で、紫赤（同 9708）のブロッチが入る（表1、図1）。
- 3) 花の大きさは7～8cmの中小輪系である（表1）。
- 4) 季咲き栽培における到花日数は約70日で、極早生品種である（表1）。
- 5) 同時開花数は「トラベラ」や「ハンティングソング」などの普及品種よりも多く、観賞価値が高い（表1）。
- 6) 現地適応性試験における生産者の評価は、赤斑病に対して「トラベラ」よりも耐病性が高く、その他は「トラベラ」並みで総合評価は良好である。季咲き、抑制栽培が可能で導入希望がある（表2）。また、市場評価は、切り花ボリュームの評価がやや低い但し花色の評価が高く、総合的な商品性は良好である（表3）。

3. 成果の活用面・留意点

- 1) 県内の、季咲き、抑制栽培に適する品種である。
- 2) 球根の増殖率は「トラベラ」並みである。
- 3) 平成20年3月18日に品種登録された（登録番号 第16902号）。
- 4) 球根は、茨城県グラジオラス球根協会を通じて県内生産農家に配布する。

4. 具体的データ

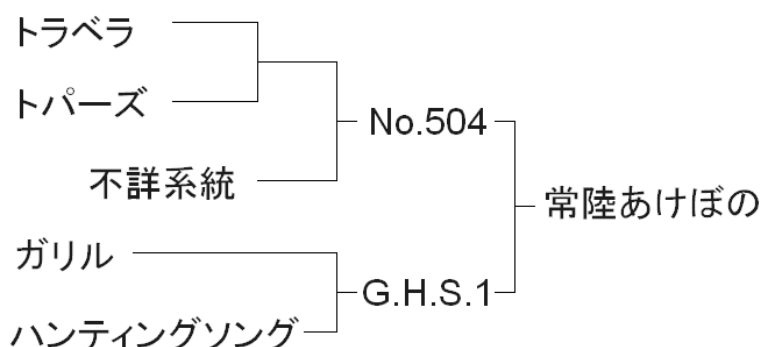


図1 グラジオラス「常陸あけぼの」の育成経過と開花様相

表1 グラジオラス「常陸あけぼの」の特性（平成16年）

品 種	草丈 (cm)	茎の 太さ (mm)	葉長 (cm)	花穂 長 (cm)	小花 長径 (cm)	小花 数 (輪)	同時 開花 数 (輪)	花 被 色 ¹⁾	花底部 の斑の 色 ¹⁾	到花 日数 (日)
常陸あけぼの	121.1	8.6	64.2	51.9	7.7	14.4	8.2	0705	9708	72
ハンティングソング	104.7	9.6	49.0	48.3	11.0	15.7	4.5	0713	0407	73
トラベラ	117.8	9.0	78.4	44.6	9.8	14.5	6.2	0402	斑なし	86

注) 4月9日定植、季咲き栽培による。¹⁾ 日本園芸植物標準色票による。

表2 グラジオラス「常陸あけぼの」の生産者評価（平成17年）

評価項目	季咲き栽培			抑制栽培		
	常陸あけぼの	ハンティングソング	トラベラ	常陸あけぼの	ハンティングソング	トラベラ
赤斑病被害	少	少	中	無	無	少
アザミウマ被害	多	多	多	無	少	無
ダニ被害	少	少	少	無	無	無
穂やけ症被害	多	多	多	無	無	無
穂腐れ症被害	無	無	無	無	無	無
収穫率	普通	普通	普通	普通	普通	普通
総合評価	良好	良好	良好	良好	良好	良好
栽培希望	有	—	—	有	—	—

注) 土浦市小山崎における現地適応性試験の結果。赤斑病被害・アザミウマ被害・ダニ被害・穂焼け症被害・穂腐れ症被害の評価；無，少，中，多。収穫率の評価；良，普通，不良。

表3 グラジオラス「常陸あけぼの」の市場評価（平成17年）

評価基準	花色	花の形	花の大きさ	花の咲き方	ボリューム	商品性
良	3	2	0	1	0	1
中	0	1	3	2	1	2
劣	0	0	0	0	2	0

注) 花き卸売市場3社のアンケート調査による。

5. 試験課題名・試験期間・担当研究室

- 1) 新品種育成普及促進事業・平成6年度～・生物工学研究所果樹・花き育種研究室
- 2) 新品種育成普及促進事業・平成13～平成17年度・園芸研究所花き研究室